

<p>国鉄改革完遂！          当たり前の労働運動          を前進させよう！          JR 東海労に          結集しよう！</p>	<p>J R          東海労</p>	<p>静岡</p>	<p>J R 東海労働組合静岡地方本部          〒420-0851 静岡市葵区黒金町68 番地          N T T 054-284-3608          発行責任者 半場弘恭          2020年10月22日 No.6</p>
--	-----------------------------	-----------	--

# 年末手当 3.5 ヶ月満額支給を！

リモート勤務のできない特殊性と感染対策の努力に応えろ！

定期券や乗車券の払戻の特別な扱いなど労苦に報いるべき！

いよいよ、年末手当の組合と会社との団体交渉が始まりました。会社の回答次第で社員の努力に対する姿勢が問われることとなります。軒並み各企業がコロナウイルス感染症の影響による収入の減を理由に労働組合も譲歩し低額に押さえ込まれています。

みなさんそれでいいのでしょうか！

資本は、景気が良くても悪くても賃金を抑え込もうとします。

コロナだから仕方ないという風潮は資本目線です。

労働組合は労働者目線でなくてはならず、資本目線に同調してはなりません。

10月2日には品川駅の社員が新型コロナウイルスに感染し、接客の伴う乗務員や駅員は今も感染に不安を感じながら危険手当もなく仕事をしています。また、真夏の暑い中でのマスクの着用、アルコール消毒、声が聞き取りにくいビニールシートでの接客、こまめな手洗いうがい、三密を避ける努力、定期券や乗車券の特別な払戻の対応等、感染対策等の努力をし、間引き運転をすることなく業務をこなしてきました。リモート勤務のできない鉄道の特异性の中、社員の努力により感染を防止し、安全・安定輸送を確保してきたのです。会社は、このような努力に応え、これまで積み上げてきた剰余金を年末手当に回し、3.5 ヶ月満額支給すべきです！会社は、十分な体力を持ち合わせています。剰余金も労働者が稼いだお金なのです！第一四半期決算で利益剰余金は3兆7,559億円です。